



平成 23 年度 (第 31 回) 九州ジュニア選手権競技

競技報告・大会最終R (2011/07/29)

写真と記事：GUK

## 優勝おめでとう!!

【15～17 歳の部】

**男子は香妻陣一朗(宮崎・日章学園高2年)が逆転9アンダー**

**女子は城間絵梨(福岡・沖学園高3年)で九州女子選手権と2冠**

【12～14 歳の部】

**男子は玉城海伍(沖縄・松城中3年)が3アンダーで初V**

**女子は勝みなみ(鹿児島・長田中1年)がP. 0を制する**



各級の優勝者 左から 12～14 歳の部男子の玉城海伍、15～17 歳の部男子の香妻陣一朗、  
同女子の城間絵梨、12～14 歳の部女子の勝みなみ

29日は最終ラウンドが行われ、15～17歳の部の男子は香妻陣一朗(宮崎・日章学園高2年)が通算9アンダー、135で優勝。同女子の部は城間絵梨(福岡・沖学園高3年)が通算5アンダー、139で優勝した。いずれも初優勝。

15～17歳の部男子の香妻は首位に2打差の3位スタートだったが、4番で並んだあと5番で逆転2打差をつけた。その後、優勝争いの対象は同級生の尾崎秀平（宮崎・日章学園高2年）になったが、後半もボギーなしの3バーディーと勢いに乗り、この日6アンダー、66をマークして逆転勝ちした。

4打差の2位は尾崎で、さらに1打差3位に朴正煥（福岡・沖学園高2年）。通算3アンダーの4位には、この日68と好スコアで回った伊差川紘治（沖縄・本部高3年）が入った。初日首位の辻九龍之介（長崎日大高2年）はこの日75で、三重野里斗（福岡・沖学園高2年）、比嘉一貴（沖縄・本部高1年）とともに5位タイだった。今年の九州アマチュア選手権優勝の時松源藏（福岡・沖学園高3年）は不調で、通算7オーバーの25位タイで、日本ジュニア出場権を逃した。

## 「次は日本タイトルを狙いたい」

### 香妻は悔しい思いをぶつけての初優勝

香妻は「絶対優勝する」と周りの人に言って、大会に入ったと言う。その公言通りに逆転での優勝。自らの力でタイトルをもぎ取った形の香妻でもあるが、4打差をつけて楽々の逃げ切りだったのか、と言うと、試合そのものは「最後まで気が抜けなかった」と振り返る。

初日は首位に2打差の69で3位のスタート。最終日は最終組。首位の辻丸を早々ととらえて抜き去ると、追いあげてきていた同じ日章学園高の同級生、尾崎に焦点を切り替え、突き放した。終わってみれば、ボギーなしの6バーディー。「やっと勝てた」と香妻だ。

というのも、記憶にも新しい今年の九州アマチュア選手権。優勝に走る時松源藏（福岡・沖学園高3年）を1打差まで追いつめながら、終盤に自滅して取り逃がしたことがあったからだ。それだけに、自分自身の気持ちへの雪辱を含めて、「欲しかったタイトル」という気持ちはよくわかる。

この春プロへの道を進んだ琴乃の弟。この後は、日本ジュニア。まだ、タイトルは取っていない。「今度は日本タイトルを狙っていきます」ときっぱりと言いきった。（K）



優勝した香妻陣一朗<sup>㊦</sup>と2位の尾崎秀平

## 女子の城間は大接戦を制して初V

インスタートの女子の城間は薄氷を踏む勝利だった。2位に5打差をつけてのスタートだったが、前半で2つスコアを落とし、2位タイの1人、柏原明日架（宮崎・日章学園高1年）に追い上げられた。1打差に迫られていた最終9番。1mのバーディーチャンスに付けた柏原に対し、城間は4mだったが、これをねじ込み、辛くも逃げ切った。

通算1オーバー、145の3位は今年の日本女子アマチャンピオンの比嘉真美子（沖縄・本部高3年）で、さらに1打差4位タイに田口晴菜（熊本・東海大二高3年）と佐伯珠音（福岡・沖学園高1年）、権藤可恋（福岡第一高1年）の3人が入った。



写真は健闘をたたえあう城間<sup>㊦</sup>と柏原<sup>㊧</sup>

### 「あきらめない気持ちが勝利を呼ぶ」城間

○…開口一番、城間の口をついたのは、「情けない」だった。

2位に5打差をつけての最終日。それが、同じ女子ナショナルチー

ムの仲間でもある柏原にジリッジリッと追い上げられ、最終9番では1打差。柏原は約1mにつけてバーディーチャンス。城間は下から約4mのスライスライン。入れなければほぼ、プレーオフ。そのとき、柏原は「プレーオフに持ち込んだと思っていた」と言う。

ところが、城間がこれを意地でねじ込んだ。最後の転がり、「入って！入って！」と2度叫んだのは覚えていないそうだ。それだけ集中していたのだろう。

「大丈夫、と言いつけながらのラウンドでした」と城間は言う。結果は、そのあきらめない気持ちが欲しかったタイトルを引き寄せた。

今年、九州女子選手権も制し、連盟公式競技2冠。日本ジュニアでも「取りに行くゴルフをしてきたい」と意欲満々だった。(K)



## 逆転で初優勝の玉城

### 勝はプレーオフで篠原を下して勝つ

城間絵梨のショット



打球の行方を見つめる  
玉城海伍

12～14歳の部は男子が玉城海伍(沖縄・松城中3年)が通算3アンダー、141で前日の2位から逆転し初優勝した。同女子は2アンダー、142で並んだ2人によるプレーオフの結果、勝みなみ(鹿児島・長田中1年)が篠原真里亜(福岡・沖学園中3年)を1ホール目で下し、初優勝した。女子のプレーオフは2年ぶり。

第17回日本ジュニア選手権(8月17日～19日、埼玉県・霞ヶ関CC)へは15～17歳の部男子が上位14人、同女子11人(シードの3選手は除く)、12～14歳の部男子11人、同女子12人が出場権を得た。

### 「自分のゴルフを」と玉城

○…男子優勝の玉城海伍は4バーディー、1ボギーでの逆転勝利。「真中、真ん中とグリーンを攻めていっていたら、6、7番と連続バーディーで流れが来た。しかし、「ショットは良かったし、まだまだ惜しいチャンスはあったんですけど…」と満足はしていなかった。

中3で手にした初のタイトル。日本ジュニアに対しては、「数字よりも内容を重視した自分のゴルフをすれば、結果はついてくると思います」と頼もしかった。

### 「気楽に行ったのが良かった」勝

○…「気楽に行きなさい、って親に言われ、気楽に行ったのが良かった」と勝。初日首位の篠原とマッチレースになり、結局はプレーオフの挙句に勝利を手にした。

最終日は1打差でのスタートだったが、「真里亜ちゃんは粘り強いから、気が抜けなかった」。しかし、スタートしてすぐは緊張はしたけど、あとは「平常心で戦えた」そうだ。その結果が、自身3度目のプレーオフに持ち込み、この勝利で2勝1敗になった。気楽に、と言ってくれたその母親の久美さんは、ホールアウトした娘を迎えて喜ぶより、「信じられないっ」というのが感想だった。

祖父の勧めで小3から本格的にゴルフを始め、1日150球を打ちこむ毎日だという。初めての日本ジュニア出場は、「全国の舞台で勉強することがいっぱいあると思う。何かを得てきたい」と抱負。しっかりした答えだった。



## 初日トップは？

### 【15～17 歳の部】

男子：5 アンダーの**辻丸龍之介(長崎日大高2年)**

女子：6 アンダーの**城間絵梨(福岡・沖学園高3年)**

初日の 28 日は第 1 ラウンドが行われ、15～17 歳の部の男子は 5 アンダー、67 の辻丸龍之介(長崎日大高 2 年) が単独トップに立った。1 打差、68 の 2 位に三重野里斗(福岡・沖学園高 2 年) がつけ、さらに 1 打差の 3 位に香妻陣一朗(宮崎・日章学園高 2 年)。

近年のジュニアのレベルアップを象徴するように、日本アマチュア選手権でベスト 8 の比嘉一貴(沖縄・本部高 1 年) が 2 アンダー、70 をマークして 5 位タイにつけるなど、計 9 人がアンダーパーをマークする激戦のスタートとなった。日本ゴルフ協会(JGA)のナショナルチームメンバーで、今年の九州アマ覇者の時松源藏(福岡・沖学園高 3 年) は 1 オーバー、73 の 11 位タイとやや出遅れた。



6 アンダーと抜け出した城間絵梨



5 アンダーで初日単独首位に立った辻丸龍之介



ナショナルメンバー 5 人(育成選手を含む)が出場した注目の同女子は、城間絵梨(福岡・沖学園高 3 年) が 6 アンダー、66 をマークして単独トップ。5 打差の 2 位タイに今年の日本女子アマチャンピオンの比嘉真美子(沖縄・本部高 3 年)のほか田口晴菜(熊本・東海大二高 3 年)、柏原明日架(宮崎・日章学園高 1 年)、佐伯珠音(福岡・沖学園高 1 年)の 4 人がつけた。

ナショナルメンバーの永峰咲希(宮崎日大高 1 年) は 7 オーバー、79 の 22 位タイと出遅れた。

2 位タイの比嘉真美子



全てがだめだった。(日本女子アマ優勝の)プレッシャーはない。明日は、最終日の雰囲気を感じながら、自分の流れに乗れば。納得できるプレーをして、結果がついてくればということない。

2位の三重野里斗



前半も後半もパターが…。ジュニアで経験しているコースだけど、わかっていない（苦笑）。パターを修正して最終日に臨みたい。

3位タイの香妻陣一朗



前半はドライバーが曲がったし、最悪だった。後半はそれなりに修正できた。内容的には良くなかったが、（首位をとらえきれなかった）九州アマの悔しさがある。今回は勝ちたい。

5位タイの比嘉一貴



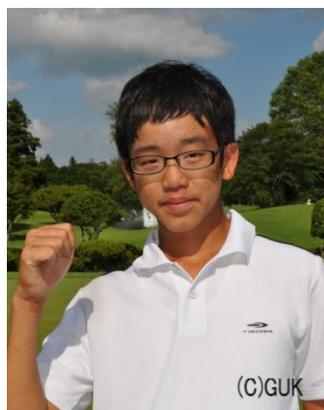
日本アマは自滅してベスト8だった。その悔しさが残った。今回は自分にとっても初タイトルになる九州ジュニアを取りたい。

【12～14歳の部】は…

**男子：尾辻恵人（鹿児島・西紫原中3年）**

**女子：篠原真里亜（福岡・沖学園中3年）**

中学生に相当する12～14歳の部は男子が尾辻恵人（鹿児島・西紫原中3年）、女子は篠原真里亜（福岡・沖学園中3）といずれもただ1人アンダーパーの71をマークして首位に立った。



尾辻恵人

男子は1打差の2位に玉城海伍（沖縄・松城中3年）がつけ、4打差に11人の混戦模様。

女子は1打差の2位に勝みなみ（鹿児島・長田中1年）で、さらに1打差の3位に三ヶ島かな（福岡・須恵中3年）

出場したのは15～17歳の部男子45人、同女子27人（欠場1人）、12～14歳の部男子52人（欠場1人）、同女子37人。



篠原真里亜

最終日の29日は午前7時30分、アウト、イン同時にスタートする。

---

## 開会式、競技スタートしました



第1ラウンドが28日、行われた。

初日は開会式が行われ、兼城大選手（沖縄・本部高3年）が「東日本大震災の被災地の方に勇気を与えられるように、全力でプレーします」と選手宣誓。この後、午前7時30分にアウト、イン同時にスタートした。

阿蘇地方は晴れ。



### 平成23年度(第31回)九州ジュニア選手権競技

---

競技報告・大会前日 (2011/07/27)

写真と記事：GUK

## 日本アマ界のトップ級が出場

### 九州ジュニア選手権が27日に開幕

熊本県阿蘇市の阿蘇ゴルフ倶楽部（男子 7078 ㌦、女子 6490 ㌦=いずれもパー72）で 28 日、29 日の 2 日間、計 163 人が出場して行われる。

競技は 12～14 歳の部（中学生に相当）、15～17 歳の部（高校生相当）の各男女の部で、2 日間全員 36 ホールストロークプレーで実施。

今大会には 15～17 歳の部の男女で日本アマチュア界のトップ級選手が出場する。

男子では先の九州アマチュア選手権で 7 アンダーの大会記録をマークして初優勝した JGA（日本ゴルフ協会）のナショナルチームメンバー時松源蔵（福岡・沖学園高 3 年）や、日本アマチュア選手権でベスト 8 と健闘した比嘉一貴（沖縄・本部高 1 年）。さらには、日本アマで決勝マッチプレーに進出した三重野里斗（福岡・沖学園高 2 年）、香妻陣一朗（宮崎・日章学園高 1 年）が健在。

女子は女子ナショナルチームメンバー・育成選手 5 人がそろい、豪華な顔ぶれになった。

今年の日本女子アマを制した比嘉真美子（沖縄・本部高 3 年）、大会記録を大幅に更新する 6 アンダーで九州選手権初優勝の城間絵梨（福岡・沖学園高 3 年）や、柏原明日架（宮崎・日章学園高 1 年）、永峰咲希（同・宮崎日大高 1 年）のナショナル 4 選手。これに、育成選手の新海美優（大分高 1 年）、今年の日本アマでメダリスト（予選 1 位）の大城美南海（熊本国府高 2 年）らの名前が並ぶ。

出場は男子 15～17 歳の部 45 人、同 12～14 歳の部 53 人。女子は 15～17 歳の部 28 人、12～14 歳の部 37 人。

27 日は午前 7 時 30 分、アウト、インから同時にスタートする。

